

雪が鋭く切り立った稜線を描き
それから、里山に近づいてきた

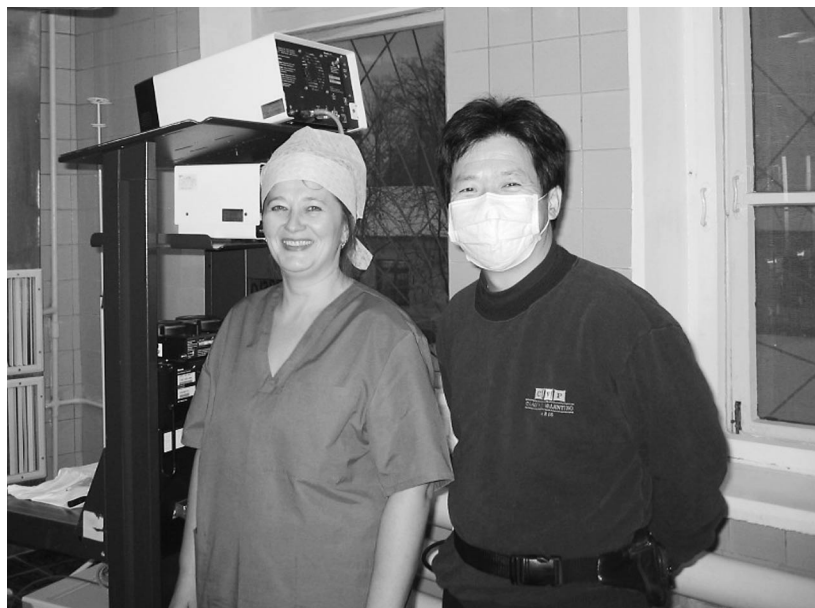
台風、暴風雨と地震による倒壊
私たちは、大自然の脅威に揺さぶられ
「私たちができること」と
つぶやきながら、立ち止まった

風が乾いて、耳に鳴る
まもなく、足もとには凍りだす

いくつもの困難も
日々の営みを繰り返しつつ
乗り越えよう
もの言わぬ、何かに後押しされながら

速報

第76次訪問団報告 ゴメリ州立病院付属産院に診断機器設置



手術室に置かれた麻酔器が、動き出した。
新生児の検査機器もテスト稼動が終了。
メディカルエンジニアのサポートに満面の笑みが返される。
冬の日の帳の降りた道すがら、暖かい信頼の灯がともされた。

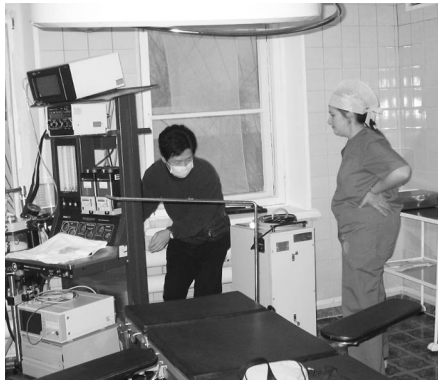
速報 第76次訪問団報告

ゴメリ州立病院付属産院に診断機器設置 ＜藤牧久芳 樹神哲郎＞	6
第77次訪問団渡航日程	10

支援報告 バグダッドの病院に支援品を届けました

光学顕微鏡・遠心分離器・薬品を届けました	12
----------------------	----

中越地震後 東海地震前 ＜小木曾茂子＞	16
ナージャの輪から ＜谷田部裕子＞	20
連載随筆「ルオーの描画」 ＜宮尾 彰＞	22
ジーマのロシア小話	24
Tabi-Tour 心のふるさとロシアへ	26
振替用紙のメッセージから	30
ありがとうございました	34
出会い Встреча	38
ベラルーシの食卓	45
粗忽堂本舗 その八 ＜村石 保＞	46
ニュースクリップ	48
Здравствуйте! (事務局広場)	50
本の紹介 Book review	52
クリスマス募金のお願い	54
事務局日誌	55



麻酔器を点検する藤牧さん

計画ほぼ達成 現地医師より感謝の言葉

藤牧久芳 (波田総合病院：臨床工学技士)

樹神哲郎 (ビー・ブラウン：臨床工学技士)

11月28日から12月4日まで、第76次訪問団がベラルーシに向かった。6月末に船便で送ったゴメリ州立病院付属産院への生化学分析器と超音波診断装置の設置、また、今年度事業として進めている医師招聘研修の準備のため、メディカルエンジニアの藤牧久芳さんと樹神哲郎さんの訪問となった。短期間で機器を設置し、続く小児科医師の到着までにテストを終らさざる重任を果たし、雪のためミンスク空港で1日足止めをくらうハプニングまでついて、無事帰国した。

初冬のベラルーシを丁寧な仕事をクリアしていった2人の足跡を報告します。

◆ゴメリがんセンター

麻酔器を修理

今年の夏から、JCFモスクワ事務所を通して「日本から供与された麻酔器が使えない、エンジニアに見てほしい」とセンター長のタッチヒンさんから依頼が入っていた。麻酔器自体とコンプレッサーには問題がなさそうだとの情報から、藤牧さんは、コネクションがうまくいっていないのではないかと判断し、出発前に部品をそろえた。

29日、がんセンターに寄ると、予

想通りだった。機械自体に故障等の問題は無く正常に作動する。コンプレッサーと麻酔器の接続が出来ずに困っていた。ミンスクから専門のエンジニアを呼びメンテナンスを試みたが改善されず、お手上げ状態だった。

さっそく、コンプレッサーと麻酔器をチューブにて接続修理し、動作確認とリークテストを行なった。機器はあつという間に正常動作を確認することができた。

今後、同様の事態に備え、修理の手順を説明し、日本から持っていた予

備の接続チューブおよびコネクタを提供した。

早い日の入りで、暗くなったゴメリを、皆さんから「スパシーバ（ありがとう）、ポリショイ（スパシーバ（おおいに感謝）」の言葉を浴びながらセンターを辞した。

タッチヒン・センター長からは、今後も、日本からの支援を強く要請された。

◆ゴメリ州立病院

医師の日本研修に関して

プランの説明

徳島赤十字病院がベラルーシの汚染地から、医師を日本に呼んで、研修を受けてもらうと計画している。JCFはこのプロジェクトのコーディネイトを行い、被災地の医師の医療知識と技術の向上を図る。このプロジェクトについて、徳島日赤との橋渡しをしてくださった樹神哲郎さんが、ゴメリ州立病院カシム院長に、具体的に研修体

制について説明した。

1 研修期間は毎年上期（1～6月）、下期（7～12月）の2チームとし各チーム2名まで、年間4名の研修受け入れが可能。状況に応じて期間の短縮、延長も可。

2 医療研修に伴い提供できるサービスとしてゴメリ、徳島間の往復運賃、住居、食事、各月5万円の滞在費用。

3 対象は、2年以上の臨床経験があり、英語でのコミュニケーションが可能な医師。

4 実施は来年2005年1月よりの受け入れ準備が完了しており、早い人選を依頼した。

カシム院長からは、意義のある提案であり、今後の医療業務のレベルアップにもつながると歓迎された。院長としては「ゴメリ州立病院は救命救急医療に関して非常に立ち遅れており、この分野への対応が大きな課題である。徳島赤十字病院での研修成果を大いに



ゴメリ州立病院カシム院長と話し会う樹神さん、イリーナさん



産院に設置された超音波診断装置



臨床検査室で血液検査

期待する」と希望を述べられた。ただし、院内に英語の出来る医師は決して多くなく、また診療科によっては業務多忙により不可能な場合もある。半年もの長期にわたる研修は病院業務に支障がある場合も考えられる。

初回の人選については速やかに行い連絡する、と積極的な返答をいただいた。

◆ゴメリ州立病院・臨床検査室

生化学分析装置のセットアップ
付属産院で新生児に行う検査を、産院には検査医師がいないため、病院の臨床検査室で行うことになっている。

生まれたばかりの赤ちゃんの血液検査のための生化学分析器を「チエルノブイリ母子支援募金」の助成を得て、購入し、ゴメリに贈った。

藤牧さんがテスト用に持参した検査チップを使って、機器のセットアップ後、検体を用いて測定確認した。イ

リーナさんの通訳で3名の検査医師に操作手順を指導した。小型のフルオートマチックのすばらしい装置に医師達は感激していた。

機械本体の液晶表示が日本語（カタカナ）で残念。主なところは、イリーナさんに翻訳してもらったが、日本製のものを支援する時にいつも感じることである。

今後の試薬（スライド）の継続提供が必要不可欠であり、現地の自力購入力と支援の兼ね合いを話し合いながら詰って行く必要がある。

◆ゴメリ州立病院付属産院

超音波診断装置の設置

電源変圧器を日本から手持ちで持参し、無事に設置ができた。梱包を解き、機器の接続と動作確認をした。

セルゲイ医師に英語マニュアル二冊を渡し、診断については後日、松澤先生より指導して頂けることを伝えた。

産院担当のステトラナ副院長からも、すばらしい診断装置の提供に対する感謝をされた。

◆ゴメリ放射線医学人間環境センター

諏訪市の中川厚子さんより預かった帽子を、小児血液病棟に入院している子ども達にプレゼントした。手編みのかわいい毛糸の帽子だ。子ども達からは、日本の支援者に対するクリスマスカードを受け取った。この「ブランド・ゼロ」が届く頃に、ベラルーシから皆さんのものに、かわいいカードが届くと思う。

センターの建物環境はすばらしく、センター長は、保健省直結なのでほぼ何でも揃うと言われるが、現場の医師は、薬など足りないものがある、と私たちに訴えるのだった。

このたびの渡航に関しては、準備期



間が短時間であったにも関わらず、計画はほぼ達成できたことをうれしく思っている。少人数の活動はむしろ効率的で行動しやすかった。提供した機器の受け入れについても順調で、各部署より感謝の言葉を頂くことが出来た。研修医招聘プランについても概ね現地の反応は良好であり、今後継続的により関係を築くチャンスとなる可能性を感じた。

ミンスクからウィーンへの帰り便が天候不良のため欠航となり、一日ホテルで足止めとなった。真冬のベラルーシ渡航はリスクが大きいことを実感した。余裕をもった予備日の設定が必要であろう。

支援報告

バグダッドの病院に支援品を届けました



イラクでは、戦闘状態が続く。
しかし、病院の子ども達の命は待ってくれない。
イラク医療支援の第一歩が始まった。
支援品の到着を伝えるメールがバグダッドから送られてきた。

第 77 次訪問団

日程： 12月5日～12月11日（7日間）

訪問先：ベラルーシ共和国ミンスク州小児血液がんセンター
ゴメリ州ゴメリ州立病院
ゴメリ医科大学

メンバー：小池 健一（信州大学医学部小児科）
松澤 重行（小児科医師）
簗手 吾一（信州大学ヒト環境科学支援センター）

目的

1. 小児血液がんセンター：ベラルーシ全体の小児がん発生について調査する。
2. 小児血液がんセンターの治療カンファレンス
3. ゴメリ州立病院附属産院
超音波診断装置・生化学分析器を使って、診断方法の検討をする。
4. ゴメリ医科大学：胎盤の放射能測定調査について実施準備をする。

支援品：ポリグロビン（免疫力を高める薬品） 50 ml 10 箱
ファンガード（抗真菌薬） 50 mg × 10 パリエル 5 箱

第 77 次訪問団行程表

日付	内容
12/05（日）	成田発 11:35 ウィーン着 16:00 ウィーン発 20:05 ミンスク着 23:00
12/06（月）	小児血液がんセンター ゴメリ州立病院附属産院
12/07（火）	小児血液がんセンター ゴメリ医科大学 ゴメリ州立病院附属産院
12/08（水）	小児血液がんセンター ゴメリ州立病院附属産院
12/09（木）	ゴメリ医科大学
12/10（金）	ミンスク発 17:40
12/11（土）	ウィーン発 13:35
12/12（日）	成田着 08:55

光学顕微鏡・遠心分離機 薬品を届けました！

神谷さだ子（JCF事務局）

遠雷の稲妻が天空を裂き、雨粒がタ
クシーのフロントガラスにたたきつけ
られます。10月26日、私たちは、イラ
クの白血病の子どもたちを支援するた
めに、光学顕微鏡・遠心分離機・G
CSF（増白血球製剤）・ペルオキシ
ダーゼ染色キットを携えて、隣国のヨ
ルダンの首都アンマンに入りました。

イラクの治安は、まったく好転せず、
なんとかアンマン経由で薬や検査機器
を送りたいと思っただけです。8月の
医療者会議を踏まえ、第一歩を踏み出
す今回の渡航でした。雨の中、車は、

ヨルダンの新聞社を回っていました。
アンマン到着の翌日、日本国際ボラン
ティアセンター（JVC）ヨルダン駐
在の原文次郎さんが「昨夜は眠れませ
んでした」と言いながら、現われまし
た。

日本からの支援物資をホテルの部屋
におさめ、帰った直後、香田証生さん
拉致の一報が入りました。情報収集と
マスクミの対応が続いたようでした。
雨の中を、新聞社の部署をあちこち回
りながら、イラク国内の外国人と軍隊
に対する事態がいっそう厳しくなっ

ていることが実感されます。ちょうど、
ラマダンの時期でした。イスラム教徒
は、太陽が上がる時から沈むまで、水
もタバコも何も口にせず、自らの欲望
を抑え、神に帰依します。夕方5時に
なつたとたん、薬局のハイサムさんが、
美味しそうに一服ふかしていました。
イスラム社会では、木曜日と金曜日が
休日です。私たちは、習慣の違いにと
まどいながら、キング・フセイン・ガ
ンセンターの小児科医長サルファン先
生の下に、カメラ付光学顕微鏡を運び
ました。

顕微鏡セットアップの手順などを、
ビデオカメラで録画して、そのデータ
をDVD・ROMに記録したのもも持
参しました。センターでは、イラクの
医師が4年間研修を受けています。何
かトラブルがあったら、センターの
医師が休暇で帰国した時に、アドバイ
スしてもらえようように、説明しておこ
うと思っただけです。サルファン先生

は、今のイラクに人や物資を輸送する
危険性にうなずきながら、センターの
ルートで運ぼうと提案してくださいいま
した。お会いして間もない日本人をサ
ポートしてくださる先生の寛容なやさ
しさに驚きと感謝でした。

8月に、私たちが、イラクの子ども
たちの命を助けたいと訪れたことを、
よく理解してくださいましたのです。
でも、今回は、これまで医薬品を運ん
でもらっていた運送会社に、当たって
みることにし、センターを後にしまし
た。

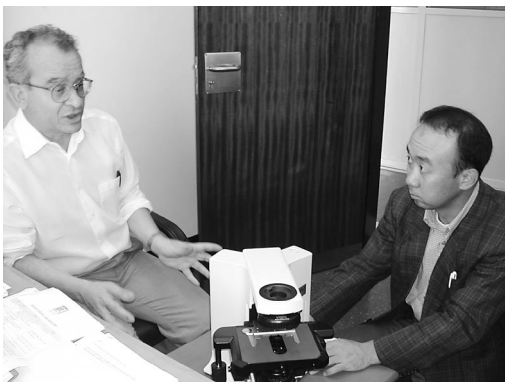
支援品10箱の総重量は160キ
ロ。GCSFはクーラーボックス
スに入れ、保冷剤を入れ替えなが
ら、9000キロの距離を運びました。
ホテルの一室で、再度付属品などを仕
分けし、バグダッドの2病院に向けて、
陸送便を依頼しました。サラーさんは、
イラクの道路事情に詳しいパレスチナ

人です。荷物がばらばらにならないよ
う、一度に運んで、米軍や武装勢力に
疑われないよう3回に分けて、アンマ
ンから四輪駆動車で運ぶことにしまし
た。

後日、原さんから、第2便の車が爆
弾を踏み、フロントガラスが割れ、走
行不能になったことを聞きました。幸
いにも運転手さんは無事で、ほかの車
をチャーターし、バグダッドまで荷物
を運んだとのことでした。

帰国するやいなや、バグダッドの子
ども福祉教育病院のマゼン先生から、
顕微鏡の荷物の横に立っている写真添
付のメールが届いていました。驚きと
同時にともうれしくなりました。マ
ゼン先生の迅速なレスポンスはもちろ
んですが、この写真の裏に、たくさん
の方たちの協力と励ましがあつたから
です。

一刻も速く医薬品を届けたい。病



サルファン先生に、カメラ付光学顕微鏡の説明をする松澤医師

イラクからの治療薬のリクエスト一覧をみて

基本的には日本で使用されている薬品が多かったが、中には世界的にも製造が中止されているものや、日本では白血病や重症貧血では用いられない薬品もリストアップされていた。医薬品の支援を行って行く上で、イラク国内ではそれぞれの疾患がどのような治療計画に基づいて治療されているのか、治療成績がどうなっているのかを知ること、さらにイラクの医療者と医療情報交換を行って医療技術的な支援も並行していくことが望ましいと感じた。

イラク国内の病院内の環境について

同行したJVCの原さんのお話では、イラクの衛生環境はあまり良くなく、病棟内をたくさんの虫が飛んでいたり、戦闘地を中心に水の汚染、肝炎の発症などが問題となりつつあるようだった。献血一輸血システムも感染症のチェック機構にかなり問題があると聞いた。血液腫瘍疾患や幼小児の治療では、治療中の感染症出血などに対する対応や予防が重要になるため、病気のこどもたちを助けるためには、医薬品の整備と同時に医療環境の改善が急務であり、日本からもこのような協力を行えば、と感じた。



松澤 重行
(小児科医師)



に、熱が下がるように。日本からの贈り物が、イラクの医師の暖かい手のひらのぬくもりを通して、子どもたちに伝わるように…。

とても高価なG-C-S-Fは、キリンビール医薬事業部が寄付してくださいました。カメラ付光学顕微鏡も、在庫の厳しい中、メーカーと医療機器販売会社が協力して間に合わせてくださいました。

こうして、アンマンにて、より一層イラクの武力衝突が激しくなると感じている中、薬を送るために奔走して下さるハイサムさん、陸路ルートへの運搬を豪快に引き受けて下さったサラさん、がんセンターのサルファン先生たちとのつながりが結べたことに感謝しています。

驟雨は、翌日にも雨雲を残していきましました。大空が、暗い雲に覆われた中で、世界が動いています。遠い日本にあっても、子どもたちの顔を思い浮かべながら、応援を続けたいと思います。「イラクの子どもたちに医療支援を」と呼びかけ、たくさんの方から応援していただきました。アンマンで購入できる医薬品は、アンマンから送っています。イラクの医師も必要な薬品をキマディア（イラク国営医薬品・医療器材流通機関）と調整しながら、どうしても手に入らない薬品のリストを

送ってきます。皆さんからの応援を得て、私たちもできるだけイラクのドクターたちのリクエストに答えていきたいと連絡を取り合っています。白血病の治療支援のために輸血システムを作ることが、緊急の課題になっています。次の支援は、血液成分分離器です。白血病や小児がんの治療成績を向上させるためには、血小板輸血が必要です。2005年2月には、イラクの病院に届けたいと計画を立てています。

平和が来るのを待っていては、病気の子どもたちは死んでしまいます。今、子どもたちには、薬が必要なのです。日本から送られた薬が、暴力と怨みの連鎖から抜け出し、平和への一歩になると信じています。どうぞ、応援をよろしくお願いいたします。

中越地震後 東海地震前

小木曾茂子

「みどりと反ブルサーマル新潟県連絡会」代表

「ノーニュークスアジアフォーラム JAPAN」共同代表

私たち一般市民は、予想もしなかった新潟県中越地震。寒い冬に向かう中、水道・ガスなどのライフラインが切断され、また、家屋の崩壊で不自由な避難所生活をおくるたくさんの方々がいる。いつ止むとも解らない余震への不安。厳しい状況にある皆さんに、できる限りの応援をしたいと思う。そして、伝わってくる揺れの中で、脳裏をよぎったのは「柏崎刈羽原発はどうなった？ 近辺に暮らす方々はどうしていらっしやるだろう？」ということだった。自らも、連日ボランティアで救済活動をしておられる小木曾さんに、一言お願いした。原発立地地域に暮らす方の生の声を聞く。

中越大震災発生からちようど1ヶ月、11月23日に私は初めて震源地近くの越後川口町の友人宅を見舞った。小千谷市から通じる2本のメインルートは未だ通行止めで迂回路を見つけ通常の2倍の時間をかけて中心部に着いた。至る所で交通標識や電柱が曲がり、家がつぶれ、道路が陥没し、空き地という空き地に自衛隊のテントが並ぶ町は、まるでゴジラが暴れた後の映画のワンシーンを見るようだった。

2004年10月23日午後5時56分、友人の妻は帰宅途中の道で、駅裏の

山々が稲妻が走ったように赤く光るのを見た。そして下から突き上げるような激震がやってきた。最初の揺れが収まる頃、立ち上がった彼女は一瞬の躊躇の後、山際に住む生死の定かでない両親に向かって手を合わせ、息子のいる県営アパートの自宅へ急いだ。夫と子どもは4階の部屋から揺れ曲がる階段を下に下りる途中だった。それから2日間、彼らはアパートの住人と共に駐車場に段ボールを敷いて暮らした。食料もなかった。水もなかった。自衛隊のヘリが救済物資を運んできたのは地震から丸2日経ってからだった。

川口町が阪神淡路大震災以来の震度7以上を記録していたことがわかったのは1週間後の10月30日のことだった。その日初めてテレビで川口町の名が呼ばれた。翌日の新聞で初めて川口町の惨状が明らかにされた。あの土砂崩れ現場での優太ちゃん救出を連日200人以上の報道陣が見守っていた。空にはひっきりなしに報道のヘリコプターが舞っていた。でもその道のすぐ先に5000人もの人びとが取り残されていることを人びとは知らされなかった。交通と連絡網が遮断されていたためだった。

もう一つ報道されない地域があった。それは**柏崎市と刈羽村、原発の立地町である**。10月23日(土)午後6時20分過ぎ、東京電力は、**柏崎刈羽原発は異常なく運転継続中と発表した**。地震発生から30分ほどが経過していた。7時40分、**原発に地震対策本部を設置**

した。10月25日付けの新潟日報紙によると「定検中の4号機を除いて通常運転。地震の揺れにより、2、3、4、5、7号機で燃料プールの水があふれた。4号機は200リットルあふれ、すでに拭き取った。他の号機も0.6〜100リットルあふれた模様」という。

柏崎刈羽地区も震度5を越えていた。刈羽村役場も即停電し、非常用無線もバッテリーが上がって12時間も作動できなかったという。放射能が漏れていたらどうなっていたことだろう。刈羽村では村内至る所で地盤の液化化現象が起き、上下水道が甚大な被害を受けていた。全壊家屋も66棟にのぼる。1500世帯のうち932世帯が家屋の損傷を受けた。(12/1現在) 柏崎市でも非住居家屋(住めない家)が745を数えている。(11/29現在)

地震発生の翌々日、柏崎刈羽市民ネットのH氏が「地震が収まるまで原

発を停止するよう」地元新聞2紙に投書した。11月2日には**反原発地元3団体**が東電に同様の申し入れをした。東京でも原子炉停止の申し入れがなされた。しかし、**震度5にのぼる余震が続く中、原発は動き続けた**。4号機の下では2000人以上の人びとが定期点検を続けていたという。地元の停電が続く中で東京へ電気は送られ続けているのだ。一昨年の不祥事から「地元の皆様のご理解を最優先に」と語り続けてきた東電の実態は昔と少しも変わってはいなかった。

11月4日朝の余震で7号機のタービンが軸方向に揺れたことでタービンと原子炉は自動停止した。しかし、検査もそこそこ11日には再起動された。7号機は刈羽村にあり、増設時に地盤が補強された。ヒューマンロツクと呼ぶそうである。すなわち、砂の上をコンクリートで固めたようなものである。マグニチュード6.9を想定して

私たちはイラクの人々が安心して暮らせる日々が
1日も早く来ることを願い、行動していきます。

イラクの子どもたちへの医療支援についてどうお考えですか？
日本人や日本政府は何をすればいいでしょうか？
～「鎌田實講演会」アンケートより～

- ◎日本政府はNPO、NGOの支援をもっと重視するべきである。「やってもら国民」ではなく「自らやる国民」に世界の人々が目覚めることが必要なのだなぁと思いました。(自戒も込めて) (坂城町・男性)
- ◎もっと医療支援をしてあげれば良いと思います。自衛隊より、医療支援の方が大事だと思います。日本人は無関心平和ボケ、悲しいことです。(須坂市・女性)
- ◎日本政府も日本人も医療支援を主軸に復興支援をすればイラクの人たちに日本人の真意を理解してもらえるのではと思います。自衛隊派遣にかかる費用をもっと有効に使ってほしいですね (須坂市・女性)



原浩 カリカチュラ

いるというが、今回震源地ではマグニチュード6.8と推定されている。
国の地震調査委員会は直前の10月13日に「長岡平野西縁断層帯はマグニチュード8.0程度の地震発生の可能性がある」と発表している。しかし東電は原発設置時の地質調査を理由に国の警告をも無視し、停止を拒否し続けているのだ。

国の地震予知連絡会は何年も前から、浜岡原発の建つ静岡県御前崎付近を中心とする東海地震の発生に警鐘を鳴らし続けている。東海地震は必ず来ぬ。そのときのためにすぐに行動を始めなければならぬ。11月23日付の新潟日報紙によれば、独立行政法人「原子力安全基盤機構」は地震時の炉心損傷の可能性について浜岡モデルを評価したところ、IAEA推奨基準の6倍の危険性を示したという。これは絶対安静を言い渡された末期患者に相当すると思う。浜岡原発は今すぐにも停止

準備に入るべきである。

今回の地震で私たちは知ってしまった。原発現地の住民は地震時に報道からも救援からも取り残されるということ。刈羽村は惨状に比してあまりにも静かだった。給水車も来ない。マスコミも来ない。ボランティアも来ない。同程度の人口の川口町には道がなくて行けなかった。柏崎刈羽には道はあった。しかし静かに黙殺され続けていた。11月25日に刊行された特別写真集にも統計からはずさされている。

ひとたび大地震が来れば私たち自身が被災者となる。1枚の毛布、1個のおにぎり、1杯の水を求めて生き延びなくてはならなくなる。家族を守り、近隣の人びとを助けなくてはならない。原発を止めに行く暇も手段もなくなるのだ。

今回の地震でも多くの仲間達が長期にわたる避難生活を余儀なくされた。犠牲者も出た。長岡市濁沢町で足の不



特別報道写真集「新潟県中越地震」
(発行・新潟日报社)

自由な母親をかばい土砂に埋もれてなくなった川上氏(42)は長年の「反原発新聞」の読者だった。長岡の仲間だった。心からご冥福を祈ります。
今回は大きな原発震災とはならなかった。柏崎では震災のさなかに激しい市長選挙が行われ現職を破って市民派の新しい市長が誕生した。氷点下の避難所でも子どもたちは元気に大人や年寄りを励ましている。未来を閉ざすことがないように、そのときが来る前に、原発震災を未然に防ごう。



「伝えること、伝わること」は
「ともに生きる」こと

谷田部裕子
(ナージャの輪)

：「伝わる」は、知ること感すること、
そして手をさしあわせてつなぐこと…

グランドゼロに心寄せる皆様、ご無沙汰いたしております。先週、東京・渋谷の日本デザイナー学院のお若い学生さん達三百人に、東海村とチエルノブイリと、JCFのことを伝えに行つて参りました。

私自身、日々生活するのに精一杯で、JCO事故被害者の会の活動もままならない暮らしの中に与えられた、幸いな一日でした。(招いてくださったのは、スライド「ナージャの村」を、共に作った吉田理映子さんです)

私たちのわずかな力も、充分ではないにしろ、確かに息づいていると、ヒバクシャ講師の私は、さらなる希望と、あきらめない勇気とをいただきました。

教室の一隅に、「よかつたら持つていつて読んでね」とそつと置いたグランドゼロは、一冊残らず若者達の手に取られていきました。嬉しいです。「伝わる」には、「伝える」ことだと、あらためて思いました。

もしかしたら今頃、学生さん達の手元で、あなたの「振込用紙のメッセージから」が読まれているかもしれません。それは、大人の私たちが、次の世



クリスマスカードを描く、日本デザイナー学院の学生さん

姿とカードとを眺めながら、JCO事故に被災した翌年に、スタディツアーで訪ねたゴメリの白血病棟の子供たちや、タチャーナ・シユミヒナ先生たちの笑顔が浮かんで、命を大切に生きる世界の創生への祈りに胸が熱くなりました。

学生さんたちのメッセージより

- ・ 知らなかった、知ってよかった。もつと知っていききたい、たくさん人の痛みを知って、そこから変えていきたい。
- ・ 命の大切さ、知ると思うこと、すべてが大事、一人一人の力が大きな力になるんだと思った。
- ・ 涙がでた。心にガツンときた。忘れません。
- ・ 心こめてカード描きました。
- ・ 「私たちを忘れないで」という言葉が胸にひびいた。ちっぽけな私でも、何かできることを考えていきたい。
- ・ ムダづかいやめる、節電する！
- ・ もつと自然エネルギーを！
- ・ 国は自分たちだ。国を変えるのは自分からだ。
- ・ 無関心は罪だ。
- ・ 放射線って何ですか？
- ・ 国は助けてくれないのですか？
- ・ 絶対安全と言われても私なら近くには住みません。

他にも、とても書ききれない三百人分の声が届きました。感謝です。

「今日、たくさん知るところが多すぎて、うまく書けません」ともありました。

私は、私たちのことを聴いてくれた、一人一人の心を抱きしめたい気持ちで一杯です。

日本の若い人たちも、ヒバクはしてなくたって、一人一人悩んだり苦しんだりして生きているんだと感じて、「ありがとう、元気だね、自分を大切にしていね」と別れました。

私も、あきらめないで、命ある限り、気持ちを元気にがんばろうと思つた一日でした。

皆様もどうぞよいお年を！新しい年にも、ともに心を合わせて生きましよう。



学生さんの作った可愛いクリスマスカード

違えば違う程もつと深く一つになる

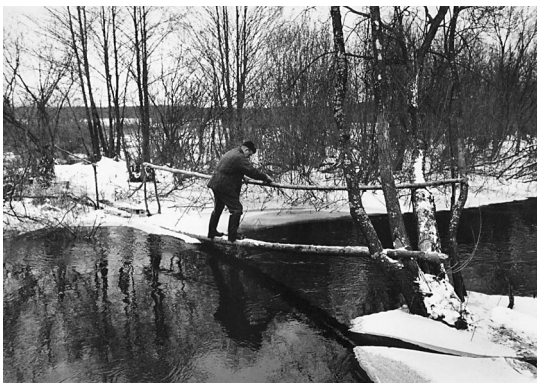
押田成人

茶道に関する書物を読み進む内に、いつしか「禪」への興味が深まりました。そして最近、森本省念(せいねん)（一八八九—一九八四）という禅僧を知ったのです。

「老師は、天理教に行ってもキリスト教の教会に行っても、まじめな顔でオチヨボ口をして、その教会のやり方で礼拝された。」と弟子の証言にあるように、その生活は禪に在りながら禪に囚われず、晩年まで机上にはギリシャ語の辞書が置かれていました。

比較とは、AとBとを前にして二者の外に立ちて、Cなる立場からAとBとを比することは、真の比較ではない。Cという外的立場を離れて、先ずAになり切りAを自分のものにする、Aが消えてしまう。そのときBを再び見ると、Bがよくわかる。

論理ではとらえることのできない文章です。自分が自分のままに、自分の身を離れて、相手の存在の内側へと滑り込み、そこに身を沈めながら全く新しい眼で世界を眺め直す…そんな経験への糸口が、人生にはあるのでしょうか。



写真提供 本橋成一



写真提供 本橋成一

フランスの画家ジョルジュ・ルオー（一八七一—一九五八）は、第一次世界大戦を生き延びて版画の連作ミセレーレ（フランス語で慈悲）を創作しました。五十八枚に及ぶ作品の内に、戦争のもたらす恐れや嘆きが描き出されています。この春、念願叶ってその一枚『盲人も時には目明きを慰めた』を入手しました。

白と黒だけのモノトーン。沈んだ灰色を背景にして画面一杯に描かれているのは丸裸で立つ男二人。画面左側の盲人は、舞うように天を仰ぎながら一歩前へ踏み出そうかという姿勢。他方右側の目明きは、その右手を隣人の脇に差し入れながら、頭を静かに垂れて瞼を閉じ、その身を相手に委ねています。

仮に今、眼の見えない人と眼の見える人が並んで立っていたとします。そこで相手を氣遣ったり行く先を指し示したりするのは、通常見える者の役割です。こう判断するのが客観的立場（C）でしょう。けれども、タイトルの示す通り、ルオーの描く世界では、二者の関係はより複雑です。見える者が見えない者を理解できるのか、逆に見えない者が見える者を理解できるのか。私たちが通常そこで立ち止まってしまう境界線を相互に踏み越えながら、盲人の暗い洞穴のような眼と目明きの静かに祈るような眼が、同じ一つのものを覗いています。

二人がそこで分かち合っている深い慰めが、暗い画面からこちらへと、光のように射して来ます。気が付くと、私はいつもこの画と問答しているのです。

「Aになり切りAを自分のものにする、Aが消えてしまう。」

老師は、その長い生涯の中で、ほとんど論文らしい論文を残しませんでした。常日ごろ、身の周りの相手とかかわり合いながら「その人の身になって、真にその人を自分自身に落着させること」に専念したのです。それがすなわち修行に他ならず、なにげない言行のうちこそ老師の禪は生きていました。

ジーマの

ロシア話

◆ある日、夫はぐでんぐでんになって家に帰りました。妻はめんぼうを取って、夫を殴る。

「あなたはこれ以上飲むか？飲むか？！飲むか？！」

夫は片目を開き、

「はい、僕は説得された。注ぎなさい。」

◆ロシアでは一番いとされる夫は国家公務員であります。なぜか、家には疲れて帰ることはありませんし、新聞は帰るまで完全に読んであるからです。



◆お嬢さんはキリスト教の祭壇の前にしゃがんで礼拝しています。

「聖母マリア、あなたは罪を起さずに受胎した聖母マリア、私に受胎せずに罪を起すように助けて下さい」

◆軍事徴兵委員会によると、ロシアの平均的な徴兵は、偏平足を煩うクリシナ教を信仰する同性愛の男です。
(訳注：ロシアの法律では、偏平足などの重病の患者、宗教上の理由で武器を持ってない人、同性愛などが徴兵の対象外になっています)。

◆「墓地へはどのバスが走るでしょうか」
「ブレーキの利かないものです」

——ストレリツォフ・ドミートリさんよりのアネクドート——



АНЕКДОТ



◆Приходит муж домой на бровях. Жена хватает скалку:

Будешь еще пить?! будешь пить?! будешь пить?!

Муж открыл один глаз: Ладно, наливай, уговорила...

◆Лучшие мужья в России - это госслужащие: они никогда не приходят домой усталыми, а газета у них к этому времени всегда прочитана.

◆Девушка стоит на коленях и молится:
"Святая дева Мария, зачавшая без греха, помоги мне согрешить без зачатия."

◆По данным военкомата, среднестатистический российский призывник - это гей-кришнаит, страдающий плоскостопием.

◆- Скажите, в какой автобус мне нужно садиться, чтобы попасть на кладбище?
- С неработающими тормозам

親愛なる 皆様

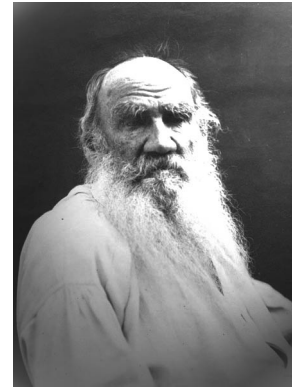
旅行会社<旅ツアー>は皆様をロシアの懐かしい、友人のもとにご案内いたします。

私たちは、皆様を、モスクワ、サンクトペテルブルグ、年間を通して美しい古都にご案内します。人生や偉大で想像豊かなロシアの作家や作曲家と結びついている所です。皆様は、ただ博物館だけではなく今も農家に残っているロシアの伝統や習慣を知り、ほんもののロシアのおもてなしを感じていただけます。日本語のよく解る認定通訳ガイドが皆様を至る所にご案内いたします。私たちは、皆様が、ご家庭でくつろがれるように、ロシアで快適に安心してくださるよう、できる限りのことをします！

我が社は、特別に皆様のために創設されました！

お待ちしております！

イリーナ・ニコラエワ (旅ツアー・代表)



Tabi-Tour

心のふるさとを訪ねてロシアへ

ロシアへの心の旅路へ皆さんをご案内します。

日程は、皆さんのお好きな日を決めて下さい。

少人数でも構いません。

モスクワ旅ツアーのイリーナ・ニコラエワさんが、
皆さんのご希望にそってコーディネートをします。



黄金の環—ロシアアイコン—

修道僧が、牛の群れを追って草地を横切る夕暮れ時、教会の鐘がいつせいに響き渡る。金色の葱坊主をいただいた教会が夕日を受け輝いている。モスクワ公国に併合される以前、11世紀から16世紀に渡って、小さな公国がひしめいていた地。たくさんの中世建築と宗教美術の宝庫。ふと、立ち寄った女子修道院からは、清んだ聖歌が聞こえてくる。ロシア正教のアイコンをたどりながら、流れない時に身をゆだねてみるのも一興かもしれない。

モスクワから200キロ、「黄金の環」の旅。

1日	シェレメチェボ第二空港到着 「イズマイロボ」ホテル
2日	モスクワ観光 旧アルバート通り散歩 地下鉄ツアー
	ポリショイ劇場またはサーカス
	クレムリン、武器庫 など
3日	アンドレイ・ルブリョフ博物館（古いアイコン）
4日	ウラジーミルへ出発 ウラジーミル観光 ポゴリュボ村 スーズダリへ移動、「ガリャーチェ・クリューチ（熱い泉）」宿泊 ロシアサウナ
	スーズダリ観光 鐘のコンサート、木造建築の博物館 モスクワに戻る
	トレチャコフ美術館 コロメンスコエ村博物館 夕食（グルジア料理）
7日	イズマイロボ自由市場でお土産の買い物 昼食（ウクライナ料理） シェレメチェボ第二空港へ出発 帰国



人数はお二人から、日数、費用のご相談に応じます。
あなたのための素晴らしい旅を企画させて下さい！

Nikolaeva Ieina Tel/Fax: +7(095)187-8306
Email:tb_tour1@mtu-net.ru
日本連絡先：JCF事務局（0263-46-4218）

チェーホフ、トルストイを訪ねて

ロシアの文豪、チェーホフとトルストイを訪ねる旅です。今年はチェーホフ没後100年にあたります。医者をしてながら、診療所や学校を作っていたチェーホフが短編から、核とした主人公のいないといわれる戯曲へと変わりつつ、表現していった人間とは、何なのか。幸せは、あなたが今いるこの場所の、普通の営みの中に根ざしていることを何気ない日常会話の中から、語ります。「白樺、川、森がある」とチェーホフがロシアの自然に身をゆだねたように、ヤースナヤ・パリャーナは、トルストイが豊かな自然と共に生涯をおくった邸宅があります。

「戦争と平和」「アンナ・カレーニナ」を執筆した文机は、質素な当時のままに残されています。トルストイが、家出の前にかき消した燭台。解き明かされないトルストイの晩年に心を添わせる静かなひとときを…。

<ツアープランの一例>

1日	モスクワ シェレメチェボ第二空港到着 送迎車で「オルリョーノック」ホテルに移動
2日	モスクワ観光セント・ワシリー寺院、クレムリン（希望に応じてレーニン廟） 聖教会、ノボデビチ修道院（希望で勝利公園を散歩）
	トゥーラに出発 チェーホフ博物館
3日	街の散歩クレムリン、博物館「トゥーラ ドゥレーブナスチ」陶芸・鍛冶工芸、おやつ（クワス・ピロシキ） ヤースナヤ・パリャーナ ホテル着 散歩と音楽の夕べ
	ヤースナヤ・パリャーナ邸（レフ・トルストイ）でパンと塩の歓迎 昼食 トルストイ夫人のレシピによるロシア料理 ヤースナヤ・パリャーナ観光
5日	トゥーラ観光 武器博物館、サモワール博物館、教会 ブリャニカ博物館（ロシアの伝統的なお菓子とお茶） モスクワに移動
	モスクワのチェーホフ博物館
6日	レフ・トルストイ博物館 ポリショイ劇場またはサーカス
	ホテルにて休息
7日	「イズマイロボ」お土産の買い物 シェレメチェボ第二空港へ

振替用紙のメッセージから



◎週刊朝日で拝見しました。鎌田實先生ありがとうございます。少額ですがよい機会を頂いて感謝致しております。(東京都)

◎主人も白血病です。少しばかりですが、お役立て下さいませ。(岩手県)

◎JCFの活動に心からの感謝の気持ちを込めてわずかではありますが寄付させていただきます。イラクの子もロシアの子も日本の子も皆等しく命は平等です。命の尊厳を侵すすべての暴力に反対します。(長野県)

◎皆によいことがありますように！(京都府)

◎鎌田先生、週刊朝日で拝見しました。「がんばらない」でがんばって下さい。(広島県)

◎お役立て下さい。(埼玉県)

◎「週刊朝日」で読ませていただきました。ささやかですが、参加させていただきます。先生の御本愛読しています。(岡山県)

◎週刊朝日の記事で読みました。少額で申し訳ありません。少しでも応援したい気持ちで…。(茨城県)

◎「グランドゼロ」をいつもありがとうございます。林先生のJCFセミナー興味深く読みました。ドリームズ9のカンパの輪が広がることを祈って…。(東京都)

◎貧者の一灯です。お役立て下さい。(東京都)

◎ご苦勞様です。わずかですが、お役立て下さい。(三重県)

◎イラクの子どもたちの治療に少しでも役立てばと願っています。(週刊朝日で鎌田先生の記事を読みました。)(神奈川県)

◎小さな応援です。(石川県)

◎大量破壊兵器など存在しなかったのに、何でイラク戦争は始まったのでしょうか。私は何もできない一市民ですが、少しでもイラクの医療体制が良くなり子ども達が健康になること

を祈っています。この支援は朝日新聞に掲載していた気がします。(東京都)

◎「清流」を読ませてもらい少しでもお役にたてればと思いました。(静岡県)

◎それぞれご自分の分野で責任を果たしていらっしやるみなさまに敬意と感謝申し上げます。ありがとうございます。(石川県)

◎扉一つ向こうの世界、祈りと行動をおくりましょ。(京都府)

◎少しですがお役に立てれば幸いです。(東京都)

◎いつもの様に少額です。お許し下さい。(大阪府)

◎少しですがチェルノブイリと両方支援させていただきます。(愛知県)

◎湾岸戦争のときは何も知らない、何もできない学生でした。少しですが今は協力できます。少しですが、役に立てば幸いです。放射能汚染なのでしょいか。イラクを離れることができない人達に少しですが役立てて下さい。(大阪府)

◎少しで申し訳ありませんが年金暮らしです。(愛知県)

◎いつもご苦勞様です。戦争のない世界のために地球のすべての子どもにもあわせを。(長野県)

◎わずかですが。(富山県)

◎少しですがお役に立てばうれしいです。(京都府)

◎皆様のご健康をお祈りいたします。(長野県)

◎秋のグランドゼロありがとうございます。とてもすばらしいメッセージありがとうございます。少しですが、何かにお役立て下さい。(栃木県)

◎チェルノブイリの子供達が大人になり『Our Stolen Future』より重い十字架を背負うと思いますので、地球人としてですが、少しですが協力します。(大阪府)

◎どうしたら世界中の子どもが幸福になれる？些少な額を…おまかせコースも作ってくださいな。お任せします。(長野県)

◎子供達の未来が明るくなるよう願っています。(長野県)

◎「雪とバイナッブル」読みました。素敵な人たちが輝いてました。(広島県)

◎ゴメリ州立病院入院の子供達のあの「澄んだ眼」がいつまでも輝いているように！(東京都)

◎心の中は哀しみでいっぱい…：それでもやっぱり希望がある！(沖縄県)

◎天災と比べて人災は何とかならないのは人間の宿命でしょうか。(大阪府)

◎少しですがお役立て下さい。(埼玉県)

◎ロシア語に耳かたむけぬ吾亦紅。(長野県)

◎白血病の子供たちのためにお役に立てば幸いです。(長野県)

◎趣旨に心より賛同します。いかなる政治的な大義であっても、子供の命を奪うことは許されたいはず。アメリカ、イギリス両国政府、そしてそれを支持している日本政府に強い怒りを覚えます。(長野県)

◎グラントゼロありがとうございませす、イラク支援のを知ることができました。前々より少しでも思っておりました。少しですがよろしくお願ひします。(千葉県)

◎僅かですが、子どもたちが元気になる一助に役立てて下さい。(宮城県)
◎グラントゼロの報告を読んで涙が止まりませんでした。少ないですがお役立て下さい。(埼玉県)

◎わずかですが、少しでもお役にたてば…。(神奈川県)
◎子供達の為にも一日も早い平和を！(京都府)

◎「清流」というご本に先生のお話が載っております。何もできない私で

すがお役に立てていただければと思います。恥ずかしいくらい額ですが送らせて頂きます。NHKラジオに出演されていたのを思い出し、とても感動でした。これからもどうぞお元気で活躍下さい。(長崎県)

◎治療と学習に少しでもお役立て下さい。(東京都)
◎イラクの子供たちに一日も早く、平和で穏やかな日が来ますようにお祈りしています。よろしくお願ひいたします。(愛知県)

◎鎌田先生のお話をビハラの集会で聴きできて幸せでした。イラク支援のチャンスをお与え下さってありがとうございます。ささやかなカンパです。(京都府)

◎グラントゼロ61号でのジャン先生のことば。「今私たちには希望が見えません、まるで未来を失ってしまったようです」胸が塞がる想いです。希望が見えるよう、持てるよう、祈りつつ

応援したいです。(長野県)

◎今年は災害の多い年ですね。次から次で、ほんの少し前のことも忘れそうです。長く続けることは大変だと思います。頑張ってください。(静岡県)
◎院内学級、どうか希望を持って楽しく学んでください。ささやかな応援です。(京都府)

◎貴いお働きが守られて続けられますよう、お祈りしています。(長野県)
◎どうか役立てて下さい。これくらいしか出来なくてごめんなさい。(長野県)

◎わずかですが、お役立て下さい。(東京都)

◎国内での自然災害が相次いでいる今、自衛隊は災害復興・支援のために帰国し、それぞれの道のプロに任せべきだと思います。美浜原発事故の時、小浜に向かう電車に乗っていて、電気も福井の特産物です”とかかけている町で何も言っていけないような雰囲気

気でした。人命第一に考えてほしいです。(京都府)

◎イラク戦争を支持する国の国民であることが悔しく、恥ずかしく、情けない思ひです。少額ですがイラクの子どもたちのために。(長野県)

◎86才の私ができる精一杯のお金です。このお金が必要としている人々のところにとどくことを切望します。(東京都)

◎いつか先生の下でボランティアができることを願って今、懸命に生きています。(東京都)

◎「少しでも多くのお薬が届きますように」どうぞよろしくお願ひします。(長野県)

◎イラクの子どもたちのために、ささやかでも本場に役立てる機会を与えて下さり、感謝いたします。(東京都)

◎通信ありがとうございます、些少ですが事務局でお決め下さい。(埼玉県)
◎わずかですみませんが送金しまし

た。頑張ってください。(新潟県)

◎いつもありがとうございます、つらい時代ですね。少しでもお役に立てますように。(京都府)

◎ベトナム戦争で輸血によりショック死をおこした人々がいるとききました。環境ホルモンが原因ではないでしょうか。必要なものを送りたいです。少し弟子が協力します。(大阪府)

◎グラントゼロのイラクの現状に関する記事は、あらためて、その深刻さを認識しました。(長野県)

◎TBSラジオで鎌田先生のお話を聞き、是非、支援させていたいただきたいと思ひました。(東京都)

◎お役目たいへんなことと思ひますが頑張ってください。(東京都)

◎いつもありがとうございます。少しですがお役立て下さい。(京都府)

◎子供達を少しでも多く救ってあげて下さい。お願ひします。(神奈川県)
◎イラク支援にお役立て下さい。

◎カフィーヤを頭に巻き40度を越すアンマンのキングフセインがンセターを訪問された鎌田先生の行動力に秘められた愛を感じました。本、テレビ、ラジオ等で元気をもらっています。ご健康を祈ります。(東京都)

◎最新の技術と智慧で支援願ひします。(大阪府)
◎毎月一日の朝、平和断食をして1人300円ずつ積み立てています。少しでもイラクの子ども達にお役に立てばと願ひします。(神奈川県)

◎あちこち大変です。小さな応援でも続けていきたいものです。(石川県)
◎少しですがお役に立てればと思ひ、そして早く平和がこの地上に実現できることを確信して祈ります。(長野県)
◎わずかですが、ほんのものの人道支援に協力します。(埼玉県)



ファスティチャ：出会い

ВСТРЕЧА

アロマとの出会いが夢をあげて

「アロマライフあずみの」というNPOグループが、月に一回、JCF事務局の三階を使ってアロマセラピーの講座を開いています。アロマという工ステというようなイメージがわいてしまい、何故NPOなのかと、代表の駒崎由美さんにお聞きしたことがありました。その時の駒崎さんのお話がとても面白く、つい最近「アロマライフあずみの」が豊科に事務所を持ったというので、お話を聞きに出かけました。

インタビューをお願いした日、「梓荘」という長野県身体障害者リハビリテーションセンターの入所者に、月一回のアロママッサージに出かけるというので、施設の許可をいただいて、実際に駒崎さん達がどんな活動をしているかを、取材させていただきました。

梓荘のホールには、ラジカセから柔らかな音楽が流れ、マッサージジョ



ルのいい香りが立ちこめています。6人の方が車椅子で集まり、駒崎さんとアロマライフのスタッフ・村岡さんのマッサージが始まっています。かなり重度な方ばかりで、ほとんど会話は成り立たないのですが、みなうっとりとしてリラックスして気持ちよさそう、強ばって変形した手足を少しずつ揉みほぐすようにマッサージしていきます。最初は身体に触られるのを嫌がる人もいたようですが、今は梓荘のスタッフの方もいっしょにいるんな語りかけをして、すっかり定着しているようで

した。マッサージが済んだ後、場所をアロマライフさんの事務所に移して、お話を聞きました。まず駒崎さんとアロマセラピーとの出会いからお話させていただきます。

私は信州大学医学部付属病院の看護師でしたが、学生の頃、糖尿病の子どもをボランティアをしたことがあり、一般の病院を経験した後は、いつか、障害を持った子どもの施設



で仕事をしたいと思っていました。またイギリスのボランティア活動に関心があり、海外では福祉というのはどういうことをしているのか、看護師を辞めて、イギリスの福祉施設でボランティアしながら英語を学ぶ決心をしました。それが15年前のことです。

イギリスで面接して決めたのが、知的しょうがいをもった子どもの施設で、偶然にシユタイナー教育をしている学校だったのです。大きな敷地の中に何軒も家があり、子ども達は十二、三人くらいづつ、年齢や性別もばらばらになるように割り振られて、各家に暮らします。父母の役は職員の夫妻で、私達ボランティアもそれぞれの家に配属され、個室も与えられて、子どもの面倒をみるために寝食を共にします。

私も男の子3人を受け持ちました。朝食の時なども、イギリス式にみなきちんと身支度をして席に着かなくては

なりません。それまでは私は髪の毛はさばさで食卓に滑り込むほうだったので、ここでの生活は、とてもいい経験でした。

朝は自分がちよつと早く起きて子どもを起こして身支度をして(しょうがいのある子なので、時間もとてもかかります)、髪もとかして食卓に着く。食事の後は敷地内の学校まで送って行きます。そして今度は先生のお手伝い、学校も敷地内のシユタイナー学校なので、普通の学校とはちよつと違います。

学校の中に診療所があり、看護師さんが常駐しています。この看護師さんが何をするかというと、アロママッサージなんです。ドイツなどから何人かの看護師さんがシユタイナー学校内での看護の研修に来ていました。私も看護師さんの仕事に関心があったので、見せてもらったのですが、大病院で看護師として働いていた私がイメージするのと、シユタイナー学校で

の看護師さんのやる事が全然違って、同じ職種とは思えませんでしたが、同職種の発作を起こしている子どもや自閉症の治療、切り傷の治療まで「薬」はいつ出てくるんだろう、とい



イギリス留学中の駒崎さん（左端）

う感じなのです。まず植物療法をして、それで対応できないもの、専門的治療が必要な、骨折や発作の場合、やっと医師が出てきます。アロママッサージという日本では手や足というイメージですが、ここではそんなふうにはまってはいけません。いろんなハーブとかがいっぱい置いてある部屋で、看護師さんは子どもを膝にのせて、その辺の薬草をちょこちょこつとブレンドして、歌いながら遊びながら、よく見ると、おでこを、お腹を、マッサージしてました」という感じなのです。「さあアロママッサージするぞ」ではなくて、なんかいい匂いがするし、気持ちいいなと思ったらハーブとか植物療法だった、それがアロマに出会った最初でした。

例えば、けいれんを起こした時はけいれんを押さえる作用があるカモミールを使うのですが、（確かにカモミールには鎮静作用のある成分が含まれて

いますが）症状を押さえる薬剤があるのに、看護師が薬草をごそごそやっていて、魔女みたいで、百年古いじやないかと思いました。

でも植物療法を受けている子ども達を見ていて、上手く言えないのですが、薬品での劇的な治療にはない、子ども達が、歌を歌ってもらいながら、マッサージされて『癒されている』ことを示す表情とともに治っていく姿は印象的でした。

身体に攻撃性が少ない植物による治療だからこそ人間の生きる力を蘇らせるのではないかと感じて、最初ばかりにしていた時と見方が変わってきました。そして看護師さんが選んでいるハーブも実は気分を選んでいけるのではなく、子どもの症状に合わせてきちんと成分を考えマッサージしていて、そのための学校もあると聞いて、俄然興味が出てきて、私も勉強してみたいと思ったのです。

ビザの関係もあって、1990年一度帰国して、今度はボランティアとしてではなく、アロマセラピーの勉強のためにイギリスに渡りました。その前の渡航で仲良しになったイギリスの友人の家の近くに、アロマのいい先生がいる学校があるということで、ヨークシャーカレッジという、アロマや一般的なマッサージの勉強をして、エステティシャンになるための専門学校に入学しました。日本ではまだアロマセラピストは仕事としては宙に浮いていますが、イギリスでは人の身体に触れる仕事、スポーツマッサージ、アロママッサージなどをするには総て国家資格が必要なのです。その試験を受けるためにはほぼ一年間の勉強が必要です。私は看護師免許があったので、解剖学・生理学の授業は一部免除で、8ヶ月間が必要でした。

その学校は月曜日から金曜日までは授業、土曜の午前中は毎週試験で、試験の点が一回でも基準点をとれないと、即刻退学なのです。英語力の不足もあったので、金曜日はほとんど徹夜でした。生まれて初めて勉強したという感じでした。ここまで来て途中で日本に帰れない、後がない！と思ってがんばりました。そして土曜の午後は地域のの人に学校を開放して、全身のマッサージをしたり、いろんなトリートメントをしたり、とてもいい経験でした。私はその学校で初めての日本人留学生ということで、珍しがってお客さんが来てくれ、「日本ってどこにある?」とか、日本びいきの人は「盆栽をやっている、ハロツズの上にある日本料理はうまい」とか話しかけてくれます。英語で会話をするのに気をとられると、マッサージしている手が止まり、もう必死でした。でも、会話を楽しみながらお客さんを飽きさせないようにすることを、

ここで学び鍛えていただきました。

そこを卒業して、もう一つの学校に行きました。私はヨークシャーカレッジに来ていた、ジョアンナ先生にとても関心を持っていて、その先生がロンドン近くにアロマだけの専門学校を持つていたので、そこでもう3ヶ月勉強したのでした。

その後日本に帰ったのですが、それから波瀾万丈でした!

日本では、アロマセラピストの仕事は確立していなかったもので、ホテル内のトリートメントとか、美容や化粧品とセットでした。最初はアロマの仕事なら何でもやってみようと思い、アロマセラピストの人材バンクに登録して、何ごとも経験だからと、化粧品を売ったり、イギリスでできなかった経験をしました。その会社は、月のノルマもあって、大変でしたが、これは人間を働かせるように、良くできたシ

ステムなど感心しました。

そのうちに日本のアロマも、美容の分野と、保養から健康維持、治療の一部にも使える分野とが分かれて、後者に対しては、医療関係者も関心を持つ人が増え、私も医療関係者が組織する団体が持つてる学校の講師をすることになりました。

その辺から『自分ができることは、この分野だ』という仕事に近くなりました。でもあの頃、化粧品関係の仕事などを全部排除していたら、今頃、NPOを設立していかないかもしれないと思います。いろんなものを見て、いろんなことを経験してきて、「あっ、これ！」って選べたのがうれしいです。

いろんなことを経験してこないで、自分が活かせる道を、自信をもって選べないかもしれないですね。

イギリスから帰ってきて東京に住んではいたんですが、長野県で月に一回程度の講習会を続けながら、エステヤ

美容以外にできる可能性があるなら、ということに近いの老人ホームでマッサージをしていました。すごく喜んでもらえ、職員の方にも「こんなことがあるんですね」と言ってもらえたので、月一回でも継続してやっていきたいと思うようになりました。

それには責任が伴うので、ポランティスグループよりももう少しちゃんとした組織にしたいと考えていた時、ちょうどNPO法人という、ポランティスグループを組織面で会社組織のように固めたものが作れるということで、2001年10月、NPO法人格を取得しました。

海外事情を知って改めて気付いたのですが、日本ではからだの具合が悪いと感じた時に、治療を受けるところは病院と決まっています。けれども、健康はできるだけ自分の努力で維持して、自分や自分の家族、子どもの健康に必要な治療を、自然療法から先端医

横で熱心にメモをとって駒崎さんのお話を聞いていた、アロマライフの役員で、看護師の資格をもち、現在子育て中の主婦、村岡早苗さんが、言葉を加えます。もともと民間療法に興味があった村岡さんですが、アロマを勉強

し、NPO活動にも参加して、思った以上に自分の考え方が変わり、これまでに蓄積した看護師の知識とのギャップもあつたといえます。

「ああこれはもうどうしようもないと思っていった慢性的な皮膚のトラブルとか、今まで病院で諦めていたこと、または医者に行つてクスリを使うしかないと考えていたことが、アロマでこんなに自然にいい方向にいくのかと驚くことがありました。病棟とかでも、ああいうケースもあつた、こういうケースもあつた、そういう時にこうやってあげたら、だいぶ楽だった。だろうなと思うことも多いのです」

でも駒崎さんは民間療法だけじゃか勉強しないで、それが万能と過信したり思いこんでしまうのはいけないと言います。万能という治療はない。アロマでなんでも対応できると考えてはいけないとも。

療までの、広い範囲から選ぶとる自由と責任を持たせている国も少なくありません。

日本でも、自分の健康を維持する選択肢はもつといういろいろあつていいと思います。そして、本当に今すぐに最先端の医療が必要な人に、ピンポイントで病院の医療が提供されたら、待合室が一杯になることもないのと思いません。



村岡さんによるアロママッサージの様子

最後に駒崎さんとアロマライフのこれからの夢をお聞きしました。

実はアロマを始めた時に、面白がつ作つた5年計画と10年計画というのがあるそうです。

最初は『アロマセラピー』という新しい新興宗教団体と思われたそうです。何とから5年で、長野県の医療関係者、医師、看護師、薬剤師さんにアロマについて関心を持ってもらうという目標、でもこれは予定より早く実現しつつあるそうです。そして10年目の夢として、治療を望む人の居場所が、(病院)しかない日本に、家庭と病院の間として、「養生する場所」(ドイツの保養施設に近いもの)を作りたい。病気になる前の状態や回復期に過こせ(保養の場)、食事療法や薬草療法、温泉療法を集めた場所を作りたい。そういういろんな療法の選択ができる、レジャーや収益を目的としない、



アロマライフあずみの会員さんによるベビーマッサージの様子

ベラルーシの食卓 ジャガ

ジャルコエ（ロシア風肉じゃが）

一面に散った落ち葉を踏みながら、ベラルーシの西側プーシャの森を思い出します。よく手入れされた森は、歴代の旧ソ連邦書記長が猟を楽しみに来たそうです。落ち葉のなかに足を踏み入ると、キノコがいっぱい。良さそうなのを集めても、食用と非食用に分けられ、残ったキノコは、ほんの少しです。そのプーシャで出会った、とても私たちの口になじむジャガイモとお肉料理がありました。

おや、しょうゆ味ではないけれど、この風味はまるで肉じゃが。レストランでは、壺焼き風に盛られて出てきますが、家庭では豪快に厚鍋で蒸し焼きされて物がそのまま食卓に上ります。

懐かしい味に、思わず日本の肉じゃがをベラルーシで作り、皆さんにご馳走したくなりました。

漬け物の野菜は、作り置きを作っておくといろんなお料理に付け合わせで使えます。

<材料>

牛肉 300 g、ジャガイモ 4～6個、バター・油 各大さじ2、水 100 cc、デイル 適宜

野菜の漬け物

にんじん1本（粗みじんきり）・たまねぎ1個（粗みじんきり）・ニンニク 2片（すりおろす）・ピーマン1個（粗みじんきり）・トマト半個（みじんきり）・デイル、パセリ みじん切り 少々・ゲッケイジュの葉 1枚・塩、コショウ 少々

野菜のみじん切りは塩・コショウをして、瓶詰めを作っておくと便利。材料をそのまま生で使ってもかまいません。

<作り方>

1. 厚手の鍋に、バターと油を熱し、一口大に切った牛肉を炒める。
2. ジャガイモの皮をむき、一口大に切る。
3. 2を1に入れて、一緒に炒める。
4. 野菜の塩漬けを入れて、さらに炒める。
5. 水を加え、蓋をして蒸し焼きにする。



駒崎さんの語りにはとても不思議な魅力があります。物静かで独特の抑揚とセンテンスの流れ、それはもしかしたらイギリスでの生活の名残かもしれないと、ふと気付きました。淡々としているように見えて、とても強い信念があり、それが変な気負いに見えないのは、いつも向き合う状況を楽しんで

最近ヒバクシャの映画を観て、一度汚染されると、その被害は地球上のいのちに代々つながることを余計に感じました。生まれつきの何かの病気やしょうがいをもった子どもからは、普通の子どもよりたくさんの気付きを与えられますし、生きる尊さを感じます。そして私も何かしなくちゃと感じるのです。

応援しています！（事務局・布山）

『地域に暮らす赤ちゃんから高齢者、病院や福祉施設で生活を送る方まですべての健康増進の一助となることを目指す』という、NPO「アロマライフあずみの」の大目標に向かって、静かに強く邁進してください。

しまうおおらかさがあるからでしょうか。駒崎さんと話していると、大きな夢もきつと実現できそうな気がしてきます。





よろずそこつどうほんほ 萬粗忽堂本舗

店主 村石 保

その八

信濃路はすべて夜明け前である……

「地方の時代」などと言われて久しいが、終ぞそんな時代も地方も眼にしたことはない。いつの間にやらこの国は、町村合併の大合唱。とりわけ長野県山口村と岐阜県中津川市との越県合併が話題を呼んでいる。山口村以外の合併問題がさほどに論議されていないことに、いささかの懸念をいだくのだが、山口村が県を越えた合併だ

というところが、かくも論議を熱くしているのであろう。ある合併反対論者の「山口村が岐阜県にとられてしまう」といった品を欠いた一言が、皮肉にもこの問題の本質を突いているから不思議だ。

かく言う私も、「先ず合併ありき」という考え方には反対である。国家が声高に合併を叫べば、なおさら妙な気配をその背後に感じてしまうのが道理。うがった見方をするならば、平成の大合併から「富国強兵」というイメージを彷彿としてしまい、それを私拭することができない。よそに遅れをとってはならないと、みんなが気色ばんで同じ方向に邁進する体に、薄ら寒さすら覚えるのである。

ただ、巷間伝えられている反対論者の最大の関心事が、「信州人の島崎藤村を岐阜県人にしていいのか」といった、いわば「元祖・藤村まんじゅう」はどっちだ的な論議には、いささか首を傾げたくなる。ここには例の「山口村が岐阜県にとられてしまう」が、露呈しているのである。こういった平成版固盗り合戦が論議の根底にあるとしたら、ナンセンス極まりない。

そもそも、事が藤村問題に派生しなかったならば、山

口村が岐阜県に引越してしまっただとしても、これほどに県内外の話題にのぼったであろうか。同時に、どれほどの長野県人が、山口村の存在を意識したであろうか。例えば、藤村が事ほど左様に大作家でなかったとしたらば、果たしてここまで県民の論議を呼んだであろうか。どうやらこの合併問題には、島崎藤村という文学的かつ歴史的、あるいは経済的既得権益（ブランド性）が少なからず見え隠れしているようである。

「信州人」として誉れ高い島崎藤村の文学作品が、どれほど認知・評価を得ているかは知る由もないのだが、そもそも藤村の文学的評価が、あるいは、仮に文化的価値などというものがあるとしたならば、藤村が長野県人であるか否かによって、何か不都合が生じるのであろうか。島崎藤村が、一八七二（明治五）年の木曾郡馬籠村（現山口村）に生まれたという動かし難い歴史的事実が、山口村と中津川市とが合併することで、何ほどの文学的問題になり得るのであろうか。藤村文学における風土は、藤村の作品の中に存在するのであって、その生誕地が長野県であるか否かに、藤村文学の本質など存在しない。

いわんや漱石鷗外をや。

一万人のアンケート調査をするならば、むしろ、どれだけの長野県人が、島崎藤村という作家を認識しているかを、是非とも調べてほしいものである。「若菜集」や「落梅集」という詩集をどれだけの日本人が読んだことがあるのか。はたして「破戒」や「夜明け前」をどれほどの人が読了しているのかを、この機会に知ってみたいものである。

藤村文学の本質は、その作品の中にしかあり得ない。そこに何らかの価値を見出し、かつ普遍化しようとするならば、ひたすら藤村作品を読み継ぎ検証していくほかはない。狂気の果てに座敷牢でその生涯を閉じた「夜明け前」の主人公・青山半蔵の悲劇は「近代」そのものにある。私には、半蔵の狂気のなかに、「平成の大合併」を読み解くキーワードが潜んでいるような気がしてならない。そこに、藤村再読の意義を感じるのである。

たったいま、山口村に住んで生活しているのは、島崎藤村ではない。であるとすれば、この合併の論旨は自ずから明確である。

ニュースクリップ

< 国 内 >

●墜落ヘリに微量放射性物質

沖縄県宜野湾市の沖縄国際大構内に米軍ヘリコプターが墜落した事故で、米軍は同大に対し、機体の一部にベータ線を出す放射性物質が使われていたことを伝えた。米軍は「低濃度の放射性物質が機体の安全装置に使われていた」と説明したが、詳細なデータについては明らかにしなかった。(9月3日 共同通信)

●美浜原発事故で強制捜査

作業員11人が死傷した関西電力美浜原発3号機事故で、福井県警捜査本部(敦賀署)は、関電が破損配管の点検を怠ったことが事故につながったとの見方を強め、業務上過失致死傷容疑で同原発と検査会社「日本アーム」美浜作業所の家宅捜索を始めた。(9月4日 毎日新聞)

●美浜1号機も基準下回る配管で運転

現在運転中の関西電力美浜原発1号機でも配管が基準を下回って減肉しているにもかかわらず運転を続けていることが分かり、経済産業省原子力安全・保安院は、配管を取り換えるよう指示した。(9月4日 共同通信)

●女川2号機、「減肉」で配管交換

東北電力は、女川原発2号機で、95年7月の営業運転開始から約1年1カ月後、原子炉への給水を蒸気の一部で加熱する給水加熱器の配管で減肉を確認し、2年半後に交換していたことを明らかにした。(9月8日 河北新報)

●浜岡原発、ひび割れシュラウド交換

中部電力は、定期検査中の浜岡原発1号機と2号機で、炉心隔壁(シュラウド)などの取り換え工事を行うと発表した。1号機ではシュラウドに約190カ所のひび割れが見つかり、2号機でも32カ所にひび割れがあった。

(9月17日 時事通信)

●日本のプルトニウム保有量40トン

日本が03年末時点で国内外の原子力施設に保有しているプルトニウムが約40トンあることが分かった。英仏の再処理施設で保管中のプルトニウムが約35トン、国内に保管されているものが約5トンだった。(9月21日 毎日新聞)

●臨界事故5周年全国集会

茨城県東海村のJCO臨界事故から30日で5年になるのを前に、原水禁などは事故の再発防止を訴える全国集会を水戸市内で開いた。「経済性を優先し安全性を軽視する原子力産業界の体質が臨界事故を招いた」とし「犠牲者の死を無駄にしないためにも、事故を風化させてはならない」とする決議を採択した。

(9月26日 共同通信)

●美浜原発事故で中間報告

関西電力美浜原発3号機事故で、経済産業省の事故調査委員会は、関西電力などの配管管理ミスが事故原因だとした中間報告をまとめた。これを受け中川昭一経産相は関電の藤洋作社長を厳重注意とし、再発防止策の徹底を要求。同省は美浜原発3号機について、国が定める技術基準に適合していることが確認されるまで運転を再開しないよう命じた。(9月27日 共同通信)

●核燃再処理費用、初の公式試算

原子力発電所の使用済み核燃料をすべて再処理する核燃料サイクルの費用は、そのまま地中に埋める直接処分約1.5～1.8倍になるとの試算を、国の原子力委員会小委員会がまとめた。国が公式に両方式のコスト比較をしたのは初めてで、原子力開発利用長期計画策定会議で報告される。(10月5日 毎日新聞)

●元原発作業員が東電を提訴

骨髄の病変「多発性骨髄腫」にかかったのは原発内での作業時に大量に被ばくしたのが原因だと、大阪市の元建設会社社員長尾光明さん(79)が、東京電力に約4400万円の損害賠償を求める訴訟を東京地裁に起こした。長尾さんは、1977年10月から約4年3カ月、東京電力福島第一原発、新型転換炉原型炉ふげん、中部電力浜岡原発で配管工事を担当。98年に多発性骨髄腫と診断され、今年1月には富岡労働基準監督署に労災認定された。(10月7日 共同通信)

●ウラン残土訴訟、撤去命令が確定

鳥取県湯梨浜町の方面地区に約40年間置かれている約3000立方メートルのウラン残土につ

いて、地元自治会が核燃料サイクル開発機構に撤去を求めた訴訟で、最高裁第1小法廷は、核燃の上告を退ける決定をした。すべての撤去を命じた核燃敗訴の1、2審判決が確定した。

(10月14日 共同通信)

●再処理施設で放射能漏れ

核燃料サイクル開発機構の東海再処理施設で低レベル放射性廃液の処理中に放射性ヨウ素129が大気中に放出されるトラブルが14日に起きていたことが分かった。核燃機構は「ヨウ素が放出された」とだけ広報して、放射性物質とは説明せず、警報が鳴ったことも伏せていた。

(10月16日 共同通信)

●核サイクル政策支持を決定

原子力政策の基本方針となる原子力長期計画の改定作業をしている原子力委員会の新計画策定会議は、原発の使用済み燃料を再処理する現行政策を基本的に支持する方針を決めた。稼働させるかどうかが焦点だった青森県の六ヶ所再処理

工場への事実上のゴーサインで、青森県の了解を得て年内にもウランを使った試験を行うことになる。(11月1日 共同通信)

●愛媛県、プルサーマル申請を了承

軽水炉でプルトニウム・ウラン混合酸化物(MOX)燃料を燃やすプルサーマルを四国電力伊方原発3号機で実施する計画について、愛媛県は、四国電力が国に申請を出すことを正式に了承した。プルサーマルは国が進める核燃料サイクルの主要な位置を占めるが、先行した電力会社は不祥事などで計画が行き詰まった。最大の課題である地元の理解を得たことで、四国電力の計画は実現に向けて動き出す。(11月1日 共同通信)

●ウラン試験の安全協定締結

青森県と同県六ヶ所村、日本原燃は、青森市で、同村の使用済み核燃料再処理工場で劣化ウランを使う稼働試験(ウラン試験)に向けた安全協定を締結した。原燃は三沢市など周辺6市町村とも安全協定を結び、早ければ年内にも試験を始める。

(11月22日 共同通信)

< 海 外 >

●ロシア、濃縮ウランを回収

ロシア原子力庁当局者は、米ロ両国の合意に沿って、ロシアが既に旧東欧諸国やリビアの実験用原子炉から計900キログラムの濃縮ウランを回収したことを明らかにした。核物質がテロリストの手に入るのを防ぐため、米ロ両国が合意した核物質共同回収計画に基づく措置。(9月15日 時事通信)

●IAEA理事会、イラン非難決議採択

国際原子力機関(IAEA)の理事会は、イランに対し、核兵器製造につながるウラン濃縮活動を直ちに全面停止するよう求める非難決議を全会一致で採択した。(9月18日 ロイター)

●イラクの核関連施設消失

IAEAのエルバラダイ事務局長は、国連安保理に提出したイラクに関する定期報告書で、衛星写真の分析の結果、同国の核関連施設数カ所が組織的に解体され核兵器製造に転用可能な機器や物質の所在が分からなくなっているとして、拡散の可能性に懸念を示した。(10月11日 時事通信)

●ベラルーシ国民投票

憲法の3選禁止規定を削除してルカシエンコ大統領の3期目立候補を認めるかどうかを問う実施されたベラルーシの国民投票で、中央選管は開票の結果、有権者の77.3%が賛成し大統領の提案は承認されたと発表した。投票率は89.7%。(10月18日 共同通信)

●ベラルーシで反政府デモ

ベラルーシの国民投票でルカシエンコ大統領の3選が認められたことに抗議する無許可のデモが、首都ミンスクの中心部で行われ約500人が参加。警衛隊が実力行使し野党指導者ら46人を拘束した。(10月20日 時事通信)

●韓国が劣化ウラン弾製造

韓国が1980年代にIAEAに通告せず、劣化ウランを用いた対戦車用の砲弾を製造していたことが分かった。韓国では未申告の核関連実験が最近相次いで判明。劣化ウランを使用したプルトニウム抽出との関連などが問題視される可能性がある。(10月22日 共同通信)

こんにちは！

Здравствуйте!



- ・アルプスフロント市民フォーラム
<http://www.alpsfront.org/>
- ・アルウィンスポーツプロジェクト
<http://www.alwin.org/>

そこで地元の企業経営者などから成る松本青年会議所のメンバー有志が集まり、やはり地元の山雅^{やまが}サッカークラブを母体としたプロジェクトの立ち上がりとなつてしまふアルウィンが無駄にしないだけでなく、将来は誰もが参加できる総合スポーツクラブ化を図り『松本に住むことが楽しい』と誰もが感じるまちづくりの一環になれたいと思います。

また、毎年松本ではサイトウキネンフェスティバルが開催されます。すばらしい音楽の祭典ですが現時点では小澤征爾さんの魅力のみに偏るところがとても大きいと言われています。なおかつ数々の物議を醸し出した壮大なまつもと市民芸術館も完成し、スタートを切ったところですが様々な課題がかけられています。すべてハードはあるけ

どソフトがない状態なのです。

思うに北アルプスの峰々のように激しい起伏ばかりですが、自分達が生まれ育つたこの故郷に対する愛情と誇り、それに加えて大きな夢があります。目の前の扉を開ける所まで来ているのです。扉一枚先には素晴らしい世界があることがわかっていてもその扉を開けることが困難だとわかっていると諦めてしまうのが普通かもしれません。

けれどJCFの方々のように長い年月をかけて普通ではないことをやつのけている人々がいるということを知ったとき、人が人として生まれてくる所以はチャレンジし続けることなのだと思えるような感覚を受けました。苦しみをなお楽しみとなすという精神の崇高さをさらりと見せて下さる方達を間近に感じることできる場所を与えて頂いたことに感謝しつつ慌ただしい日々を過ごす毎日です。

故郷への愛と誇りと夢
NPO に託して！

大野由美子



松本市市民祭で、プロジェクト理事長八木さんと大野さん

スポーツプロジェクト事務局の大野由美子と申します。どちらも認可を受けたてはやほやのNPO法人です。

アルプスフロント市民フォーラムは、北アルプス連峰を臨むこの地域を「アルプスフロント」と命名し、企業、行政、大学、NPOとのパートナーシップの形成を促進し、「市民が主役であるまちづくり」の実現に向けて積極的に政策提言していくことを目的として

皆さんこんにちは。この度縁あってチェルノブイリ連帯基金事務局の空きスペースに間借りさせていただくことになりました。アルプスフロント市民フォーラム及びアルウィン「長野県からJリーグへ」を合言葉に5年以内にJ2入りを目指すサッカープロジェクトです。事の発端は名に冠されています「アルウィン」をどうするかということが始まりでした。

アルウィンとは日韓ワールドカップでパラグアイのキャンプ招致の際に新設されたイス席1万6000席立ち見席4000席のスタジアムのことです。が、そのポテンシャルが発揮されるのは現状ではほとんどありません。

まず第一段事業として、先日『アルプスフロント市民青空祭り』を開催させていただきました。秋晴れの青空のもと、各NPO団体が連携して変化に富んだ企画を打ち出し、楽しいお祭りになることができました。こういった事業をステップにして、市民の皆様の生の声を窺い、生かしながら今後のまちづくりの構想を練るこの頃です。

ロシア小話 アネクドート

さとう好明



「ロシア小話 アネクドート
腐敗と寒さを笑い飛ばせ」
ユーラシア・ブックレット No.66
著者：さとう好明
発行：東洋書店
定価：630円（税込）

Book

政治や社会、生活に対するソ連・ロシア人のものの見方、皮肉な視点などが多数のアネクドート（小話）を通して見えてくる。笑いの中に見え隠れする大ロシアのもう一つの姿。その発生の考察なども盛り込みつつ、時代性・民族性を反映する小話を多数紹介。

不安の正体！

金子勝 藤原帰一 宮台真司 A・デウィット



「不安の正体！
—メディアの政治とイラク戦後の世界—」
著者：金子勝、藤原帰一、
宮台真司、A・デウィット
発行：筑摩書房
定価：1890円（税込）

Book

「帝国」アメリカの大義なき戦争、不安に駆られ監視を切望する人々、対米追従にひた走る日本、媚びるメディア、崩壊する国際秩序…。不透明で困難な時代の出口を求め、金子勝・A・デウィット・藤原帰一・宮台真司が徹底的討論。

世界史のパサージュ

監修 小川幸司



「世界史のパサージュ」
監修：小川幸司
発行：東京法令出版
定価：860円（税込）

Book

「パサージュ」とはフランス語で「横町、アーケード街」といった意味の言葉である。人間のきたないものも美しいものもゴチャゴチャに存在するパリの雑踏の風景を想像すればよい。世界史を学ぶという営みも、実は、そのようなパサージュの中から未来に生きるための希望を見つけようとするのではないだろうか。（はじめに）より）受験生だけに独占されるのは惜しい一冊。

歴史の狭間のベラルーシ

服部倫卓



「歴史の狭間のベラルーシ」
ユーラシア・ブックレット No.68
著者：服部倫卓
発行：東洋書店
定価：630円（税込）

Book

周囲の大国に翻弄され続け、ソ連崩壊を受け独立したベラルーシ共和国。その国民国家実現までの困難な道程を、近代ナショナリズムの歩みと対比しつつ通史として明らかにする。ロシア史の一部であり、ポーランド史の一部でもある変転の歴史を紐解く。

公認「地震予知」を疑う

島村英紀



「公認「地震予知」を疑う」
著者：島村英紀
発行：柏書房
定価：1470円（税込）

Book

なぜ地震は予知できないのか。地震をめぐると法律と学問の25年とは。阪神淡路大震災後のお役人たちの迷走。「東海地震対策大綱」解説。そして来る大地震に備え我々は何をすべきなのか。地震を研究するため世界の海を駆けめぐり、地球物理学者の心配と本音が交錯する。ニッポン「地震学」盛衰記！政・官・学の現場を知る著者による辛口の批判書。

一匹ぼっちのコオロギ

手仕事屋きち兵衛



「一匹ぼっちのコオロギ」
著者：手仕事屋きち兵衛
発行：オフィスエム
定価：1500円（税込）

Book

「自分はいったい何者」で「どこから来て」「どこへ行くのか」「ほかに代役がないか、自分でなければならぬこと、それはいったい何なのか」それがわたしにとっては大問題であり、それを知りたくて生きているとも言える。そしてその答えは、いまだに明確に得たわけではないが、人生も半ばを過ぎて、漸くその辺りがぼんやりと見えてきたようにも感じている。（はしがき）より



第 62 号

発行日 2004 年 12 月 26 日

発行人 鎌田 實

発行所
日本チェルノブイリ連帯基金

イラスト題字 貝原浩

イラスト 武内裕子

重岡朱

表紙デザイン 酒井隆志

スタッフ 神谷さだ子

布山みな子

協力 重岡 朱

風樹 光

佐内裕之

大野由美子

印刷 電算印刷

■編集後記

河合隼雄氏が「動物のなかで、多分人間だけが、死ぬことを知ったうえで生きていかなばならない、それはある意味では病んでいる」と語っている。だから人は新年という区切りを作り、新しい年に再生の想いを重ね、過去の記憶を燃やして、明日に向かって生きていこうとするのかもしれない。「明日」に巡りあえたことを大切に、今を慈しみたい。(布山)

■事務局日誌■

< 10 月 >

- 1 日 11/7 鎌田理事長講演会実行委員会 (長野県庁)
- 6 日 本橋監督・星川さん来松
- 10 日 11/7 鎌田理事長講演会実行委員会
- 12 日 オフィスエム村石さん来局
- 15 日 NPO 学習会
- 18 日 グランドゼロ発行・発送作業
- 20 日 ミンスク・小児血液がんセンターとの衛星通信 (信州大学)
- 22 日 ヨルダン・アンマン渡航への打ち合わせ (松澤先生来局)
- 23 日 11/7 鎌田理事長講演会実行委員会
- 25 日 ヨルダン・アンマンへ渡航 (松澤先生、神谷) 映画「ヒバクシャ」ビデオを見る会
- 30 日 アンマン渡航帰着
- 31 日 外国人検診 (松本協立病院)

< 11 月 >

- 5 日 11/7 鎌田理事長講演会、現場打ち合わせ
- 7 日 鎌田理事長講演会 (長野県庁)
- 8 日 JVC 佐藤真紀さんとのミーティング (上野 JVC 事務所)
- 12 日 樹神さん来局
- 13 日 鎌田理事長講演会反省会 (コープ長野)
- 20 日 イラク報告会 (茅野福祉センター) 会員さん訪問取材

- 22 日 12/18 イベント「チェブラーシカのクリスマス」実行委員会
- 24 日 映画「ヒバクシャ」上映会アンケートとりまとめ (あがたの森)
- 25 日 大竹財団イラク報告会 (阿木理事、鎌仲監督、神谷)
- 26 日 カタログハウス・イラク報告会
- 28 日 第 76 次訪問団出発 (樹神さん、藤牧さん)

- 28 日 第 76 次訪問団出発 (樹神さん、藤牧さん)

- 28 日 第 76 次訪問団出発 (樹神さん、藤牧さん)

- 28 日 第 76 次訪問団出発 (樹神さん、藤牧さん)

- 28 日 第 76 次訪問団出発 (樹神さん、藤牧さん)

- 28 日 第 76 次訪問団出発 (樹神さん、藤牧さん)

- 28 日 第 76 次訪問団出発 (樹神さん、藤牧さん)

- 28 日 第 76 次訪問団出発 (樹神さん、藤牧さん)

- 28 日 第 76 次訪問団出発 (樹神さん、藤牧さん)

- 28 日 第 76 次訪問団出発 (樹神さん、藤牧さん)

- 28 日 第 76 次訪問団出発 (樹神さん、藤牧さん)

- 28 日 第 76 次訪問団出発 (樹神さん、藤牧さん)

- 28 日 第 76 次訪問団出発 (樹神さん、藤牧さん)

- 28 日 第 76 次訪問団出発 (樹神さん、藤牧さん)

- 28 日 第 76 次訪問団出発 (樹神さん、藤牧さん)

- 28 日 第 76 次訪問団出発 (樹神さん、藤牧さん)

- 28 日 第 76 次訪問団出発 (樹神さん、藤牧さん)

- 28 日 第 76 次訪問団出発 (樹神さん、藤牧さん)

- 28 日 第 76 次訪問団出発 (樹神さん、藤牧さん)

- 28 日 第 76 次訪問団出発 (樹神さん、藤牧さん)

- 28 日 第 76 次訪問団出発 (樹神さん、藤牧さん)

- 28 日 第 76 次訪問団出発 (樹神さん、藤牧さん)

- 28 日 第 76 次訪問団出発 (樹神さん、藤牧さん)

- 28 日 第 76 次訪問団出発 (樹神さん、藤牧さん)

- 28 日 第 76 次訪問団出発 (樹神さん、藤牧さん)

- 28 日 第 76 次訪問団出発 (樹神さん、藤牧さん)

- 28 日 第 76 次訪問団出発 (樹神さん、藤牧さん)



10 ドリームズ 9 振込口座

A コース	医師の研修支援
B コース	小児白血病支援
C コース	院内学級サポート
郵便振替口座番号	00570-6-34568
加入者名	チェルノブイリ (10) ドリーム 9

10 ドリームズへの寄付はおいくらでも構いません。

応援して下さった方には、現地の病院の子どもたちからクリスマスカードが届きます。

J C F 会費振込口座

賛助会費	5,000 円
特別賛助会費	30,000 円
事務局ガンバレ会費	10,000 円
郵便振替口座番号	00560-5-43020
加入者名	日本チェルノブイリ連帯基金

* 会費・寄付の入金時には入金確認の礼状はがきを差し上げます。はがき不要の方は振り込み用紙の通信欄でご連絡下さい。また領収書の必要な方もその旨お書き下さい。

J C F / イラク支援振込口座

まず一步を白血病治療の血小板の成分輸血ができるように、輸血システムを整備していきます。みなさんからのご協力をお願いいたします。

郵便振替口座番号	00520-0-81078
加入者名	J C F / イラク支援

◆支援目標◆

1. 血液成分分離器・^{しんとう}振盪器

2. 抗がん剤・抗生物質

バグダッド : 子ども福祉教育病院・セントラル教育病院

バスラ : アルーサドル教育病院・バスラ産科小児科病院

モスル : アルーサラム総合病院

J C F / 日本チェルノブイリ連帯基金

●本部 〒390-0303
長野県松本市浅間温泉 2-12-12
TEL 0263- 46- 4218 FAX 0263- 46- 6229
E-mail jcf@jca.apc.org
Website http://www.jca.apc.org/jcf/

●東京 〒164-0003
東京都中野区東中野 4-4-1 ポレポレタイムス社気付
TEL03- 3227- 1405 FAX03- 3227-1406
●京都 〒607-8405
京都府京都市山科区御陵田山町 13-3
TEL075- 591- 7772